

<http://www.broadbandschool.jp>

ブロードバンドスクール協会

NEWS

2007年

第8号

BBS

発行日：2007年9月25日 発行所：ブロードバンドスクール協会 / 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-23-8 エリート・イン・清水坂 / 電話 03-3836-1377



相田みつをの書や詩について解説する、相田みつを美術館館長、相田一人さん

俳優の市川洋介さんを特別講師にむかえての「インターネット安全教室」や相田みつをの書や詩を学ぶ「相田みつを美術館ワークショップ」、ブログの実際で作っておぼえる「ブログを作ってみよう」など、子どもも大人も時の

このワークショップは、ブロードバンドスクール協会が展開する『キッズアブログ』（インターネットを活用した日本と海外の小学生の交流を支援するプロジェクト）の中の「親子プロジェクト」として、「特定非営利活動法人CANVAS」との共同主催で行われました。

この講習のようは、テレビ会議システムを使って、ニュージーランド、オーストラランドの補習校にも中継され、一万キロを隔てた二会場の間でインタラクティブなやりとりが行われました。

キッズアブログ 第1回 親子ワークショップ

表現力をみがいて、情報発信の達人になろう！

親子で楽しく知的な夏の1日

子どもたちが夏休みに入った2007年7月26日、東京都港区の慶應義塾大学三田キャンパスで、『第1回 親子ワークショップ』表現力をみがいて、情報発信の達人になろう！と題したワークショップが開催されました。一人一台のパソコンが用意された会場には大勢の親子が集合。



インターネットのWebやメールを利用するときにつけること、情報モラル、マナーなどについて語る市川洋介さん

★なお、このプロジェクトの実施においては、以下のの方々や団体のご協力をいただきました。

【共催】慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構
【協力】マイクロソフト株式会社、関西大学、相田みつを美術館

ブロードバンドスクールキャラバン in 館山 地域ボランティアによるアットホームな手作りの講習会！



講習の締めくくりに自ら作成した教材を楽しそうに発表する受講者

2007年7月31日と8月1日、千葉県館山市で「ブロードバンドスクールキャラバン in 館山」が開催されました。このキャラバンは、館山市教育委員会によるコンピュータ研修会のうちの2日間について、ブロードバンドスクール協会が協力を申し出て実現したものです。講師は「NPO法人南房総IT推進協議会」の会員、鈴木秀美さんと板東美砂子さん、そして、アシスタントとして鈴木斎美さんの3人が担当しました。会場は、館山市内の『パソコンスクールぱれっとABC』の教室を使わせていただきました。8月9日には、千葉県南房総市でも教員を対象に同じ講師陣による「ブロードバンドスクールキャラバン in 南房総」を実施しました。

育てよう「ICTメディアリテラシー」

総務省が開発した「ICTメディアリテラシー」育成教材

清水 総務省では、子どもたちのICTリテラシーの育成に先駆的に取り組まれていますね。そのうち、いちばんホットなものについてお話しいただけますか？

松川 平成18年度に小学校5、6年生向けの教材を開発しました。この教材は、子ども用の「学習テ

携帯電話等を体験できるようにしてあります。

清水 なぜ5、6年生向けなのでしょう？

松川 パソコンを使つてのインターネット利用は、小学校の早いうちから、例えば「総合的な学習の時間」をはじめとする調べ学習などで行われています。しかし携帯電話は、中学校に入学するの

松川 テーマは次の5つです。

- ・インターネットで調べよう！
- ・わくわく！ハラハラ？インターネット
- ・学校のステキを伝えよう！
- ・メールでけんか！どうする？
- ・ケータイを持つて街へ出かけよう！

それぞれのテーマが、学校の授業であれば一コマ、つまり45分〜135分で学べるように構成してあります。学校、社会教育施設、NPO法人等の講習などにおいて、必要と思うところを必要に応じて学べるようにしています。

清水 何かひとつ、場面の例で説明していただけますか？

松川 例えば「メールでけんか！どうする？」では、「メールシミュレーター」を使い、実際にメールのやりとりをさせ、メールでのケンカを体験することができま

す。その上で、なぜケンカになったのか、どう仲直りすればいいかを考えさせます。「ケータイを持つて街へ出かけよう！」では、「お使いシミュレーター」を使い、携帯電話を持つてお使いに行く場合に気をつけなければいけないこと、例えば電車の中、お店の中などで何に気をつけなければな

らないかを、子どもたちが疑似体験しながら、画面上で選択肢を選ぶことにより学習することができま

す。このようなシミュレーターを、全部で五種類用意しています。

清水 テキストは、希望すれば配布してもらえるのですか？

松川 希望者全員に紙媒体で配布することはできませんが、総務省のホームページからリンクしている「学びの場.com」の「伸ばそうICTメディアリテラシー」というページから、自由に教材をダウンロードして、使つていただくことができます。

保護者も参加してもらうICTメディアリテラシーの育成

清水 ICTメディアリテラシーを子どもたちに身につけさせるにあたって、保護者がとても重要という認識の上で教材を開発されていますね？

松川 パソコンやインターネットというと、家族の中で子どもがいちばん詳しい、保護者はよくわからない、という声もあるようです。やらせておけば、子どもは好きなように遊んでくれるし、うるさくないし、ということ、保護者にとつてもある意味で都合がいいわけですね。保護者がよくわかっていない中で、子どもが好きに使つていて、こうした状況を放置しておくのは決して良いことではありません。昨今のインターネットや

携帯電話を使つての悲惨な事件の背景には、こうした状況もあるのではないのでしょうか。保護者は子どもの教育に対して責任を持たなければなりませんから、携帯電話やインターネットについても、例外は許されないと思います。そこで、是非保護者もいっしょに学んでいただきたい、ということ、このプログラムの中で保護者用のガイドブックも用意しました。

ネットの負の部分への対処法を学べる「e-ネットキャラバン」

清水 保護者に関しては、もう一つ重要なプロジェクトがあるとお聞きしていますが。

松川 はい。それは「e-ネットキャラバン」です。これは通信業界のCSR（企業の社会的責任）活動として、総務省も協力しつつ、実施していただいているもので、保護者や教職員を対象とした、インターネットの影の部分について

の事前授業を行うものです。具体的には、インターネットトラブルの予防と対処として、出会い系サイト、迷惑メール、架空請求詐欺などの実態や対処方法などについて、講演しています。実施期間は、平成18年4月から3年間の予定です。保護者や教職員の方々は、この「e-ネットキャラバン」のホームページをご覧になり、是非活用していただきたいと思います。

清水 私からもお勧めです。

キスト」「学習ワークブック」、指導者用の「ティーチャーズガイド」、そして保護者用の「家庭学習用ガイドブック」の四種類から成り立っており、パソコン上で使用できる「ICTシミュレーター」というツールと組み合わせ、体験しながら学習できるようになっています。「ICTシミュレーター」はいわば仮想のインターネット空間で、子どもたちが実際にその中で、Web検索やメール、

をきっかけに、あるいは中学生になつてから持ち始めるという例が多いようです。こうした実態を踏まえ、携帯電話を持つて前の小学校5、6年生を主たるターゲットにして、携帯電話も含めたICTメディアリテラシーについて一定の理解を育てておく必要があると考えました。

清水 この教材は、どのようなテーマで構成されているのですか？